



紙つぶて

熊本で水銀に関する水俣条約
外交会議が行われ、水銀による
環境汚染に関心が集まっていま
す。水俣病は毒性の強い有機水
銀をチソンの工場が垂れ流し、それが魚に
濃縮されたため引き起こされた悲惨な例
で、被害者の苦しみは続いています。

無機水銀の毒性も無視できません。水銀
は八世紀の大仏建立のころから利用され、
環境問題も引き起こしていました。低温で
気化しやすいため、大気を汚染し、呼吸を
通しての健康被害が考えられます。現在、
金の精錬と石炭燃焼での放出が発生源とし
て大きな割合を示しています。

滋賀県立大学の永淵修教授と共同研究者
の豊橋技科大の横田久里子准教授は、険し
い山岳でも使えるように自作した装置を担
ぎ、日本や台湾の山で大気中の水銀を測定

水銀

しています。富士山は四千近いため、大
陸から吹いてくる上空の風を捕まえやすい
と以前にも紹介しましたが、PM2.5な
どとともに水銀も自由な大気の中を飛んで
きています。富士山頂で検出した濃度が北
半球で汚染のない地域の平均値を上回って
いること、気象解析などから中国からきて
いることが永淵さんたちの測定で分かり、
最近のニュースでも報じられています。

今のところ日本の大気中の水銀は、優秀
な除去技術のおかげで低濃度ですが、越境
汚染は年々増加しており、蓄積されると問
題になります。石炭を日常的に使っている

中国の都市部で高濃度の水
銀汚染が推定され、健康被
害が心配されます。

(土器屋 由紀子＝富士山
測候所を活用する会理事)



中国の都市部で高濃度の水
銀汚染が推定され、健康被
害が心配されます。